

令和5年度 第4回 政策調整会議 会議録

◆開催日時：令和5年9月27日（水） 10：00～10：30

◆開催場所：第2委員会室

◆出席委員：堤副市長、波積副市長、大下教育長、西川総合政策部長、残総務部長、寺本財務部長

◆説明者：新内財政課長、浅野参事、高木予算担当長

◆審議事項

令和6年度予算編成方針について・・・・・・・・・・・・・・・・・・財務部財政課⇒承認

◆審議概要

◎付議依頼書等に基づき説明

◎説明後、質疑応答

〈堤副市長〉今回、昨年度までの新型コロナウイルス対策に代わり、新規事業及び拡充事業において優先する事業として、「大阪・関西万博に関連する事業」が新たに記載されている。コロナ対策は歳出が大きかったが、歳入もそれ以上にあったため、予算編成上ありがたかった。一方、万博については盛り上げていく必要はあるものの、歳入は見込めない。万博までの2年間は歳出が増加する可能性があるので、予算編成をする際には慎重に扱ってほしい。

経常収支比率と財政調整基金等基金は、財政運営に大きな影響がある。令和4年度決算では黒字が継続しており、決算常任委員会でも高く評価されたところ。しかし、経常収支比率は財政計画を見ても非常に厳しい状況なので、特に注意が必要。とりわけ、令和8年度には危険水域に入る。そうってから急に財政を引き締めようと思ってもできないので、今のうちから引き締め政策をお願いしたい。令和8年度から10年度には100%を超えていくのは明らかなので、せめて大阪府の96.9%程度の水準はめざしてほしい。今後人口減少が進み、交付税もどんどん減っていく。歳入が減っていく中で、2年間の万博関連経費も含め歳出の圧力が強まっていくのでよりお願いしたい。

一般会計でも特別会計でもコロナに係る臨時交付金等で歳入が増え、それに合わせたコロナ対策として、無償化や減免、生活支援などの事業も行っていた。その状況に甘えてしまうととても歳入が追いつかないことを周知しておく必要がある。財政の緩んだところが標準だと思われないように、「あったからやったのか、なくてもやったのか」、よく見極めること。

これから物価高対策など、15兆から20兆円規模で国の補正予算が出てくる可能性もある。今後打ち出される国の新たな経済対策を注視しながら予算編成されたい。金融情勢等によって物価高等への対応を迫られる可能性もあるが、財政運営としては厳しく対応してほしい。世界的な物価高はアメリカの金利上昇、日本の金利上昇につながり、公債費も増嵩する。岸和田市も他人事ではない。

〈波積副市長〉国での新たな予算の作り方には2種類あり、一方は状況を見て理屈で作る場合、もう一方は、個別事業において、市町村の優良事例をモデルにして作る場合である。後者については、岸和田市が非常に良い予算を作れば、結果的に国費を呼び込める可能性がかなりある。意識しながら予算編成をしてもらいたい。

私は、組織マネジメントの効率化を常に意識している。予算編成はもちろんだが、実際の業務執行をどうするかが非常に大切。効率的な業務執行を行い、可能ならば予算を余らせて将来に備え基金化していくことが重要。

次にDXについて。DXはシステムを入れることが目的ではなく、業務執行の効率化が目的である。大切なのは、システムをなるべく変えないこと。変えると毎年億単位の追加予算が必要になり、業務執行が効率化されないことが多々ある。システムに合わせて仕事の仕方を変え、少しでも予算を削り安く仕上げるのが非常に大事になる。また、可能であれば目標を数値化することが大事。仮に、何らかの業務で泉州ナンバーワンのコストで業務執行しているのであれば、その部署に対して新たな予算もつけやすくなるという理屈も出てくる。予算編成の際には、業務執行、数値化した目標を意識しながら進めてもらいたい。

〈教 育 長〉国の動きも含め、子ども・子育て政策が「最も有効な未来への投資」であると予算編成方針の本編に入れていただいたことは非常にありがたい。一方で、本市の財政事情、特に財政構造については抜本的な構造改革に至っていないので、これからも緊張感を持った財政運営に努めていく必要があると認識している。

その中で思うのは、「貧すれば鈍する」という言葉があるように、負のスパイラルに陥ることがあってはならないということ。財政状況が非常に厳しいが故に、削減に重きを置いた結果、将来への成長の芽が摘まれてしまったり、職員が疲弊し、企画力を伴うような仕事への熱意が薄れたり、予算がなく仕事に対するモラルが低下してしまったりと、どんどん負のスパイラルに陥り、岸和田市の衰退につながることを非常に危惧している。そういったことも頭に置きながら財政査定を含め対応されたい。

それでは予算をつければそれでよいのかというとそうではなく、職員は非常に厳しい状況に置かれており、どこも容量がいっぱいの状態でやっている。成長産業だからと重点的に予算をつけても、マンパワーが足りないということにもなりかねない。財政部局と組織・人事部局とが十分連携をとり、人の再配置、重点配置も含め、総合的に対応してもらいたい。

〈総 務 部 長〉今後の取組で、「大阪・関西万博を契機とし『未来社会』の実現に向けた取組の推進」とある。なおかつ、優先する事業として「大阪・関西万博に関連する事業」がある。万博推進本部会議の資料では、冠事業等単発的なものが散見される。できれば将来につながるような、また、将来の投資につながるような事業が出てくれば積極的に予算をつけていただきたい。これをきっかけに、岸和田市の成長に繋げていくことが明確にわかることが一番良い。

堤副市長から、コロナ対応で財源が潤い様々な歳出が増えたので、財政が緩まないように、との話があったが、その裏返しで、コロナ禍において止めてしまった事業もある。本市は事業のスクラップが弱いところがあるので、コロナ禍の令和2・3年度を振り返り、そのまま廃止できる事業は積極的に働きかけをしてほしい。

市長からもよく言われていることで、人材育成は非常に重要。人件費を単なるコスト

と見る動きもあるが、やはり人事課を持つ総務部としては、将来への投資であり、いずれ市に返ってくるものだという考えから、他団体との人事交流等を積極的に行っている部分もあるので、ぜひお願いしたい。

〈財 務 部 長〉市長との話の中で、万博は単なるひとつのイベントではなく、これからの未来社会を考えるきっかけとして我々はこの万博を見つめていこうということがあった。その観点から、予算編成方針の中であえて取り上げているところ。

残部長がおっしゃった、人への投資については非常に大事であり、取組の方向性には様々あると思っている。その中の一つとして他団体との交流があり、大きな成果が見込めるものだと思うが、通常の予算と同様、費用対効果の観点から、その団体との交流や結びつきがこれからの岸和田市のためになっていくかを十分見極めうえで行っていくべき。行革の話にはなるが、定数が我々の想定より膨らんでいる中で、取捨選択をしていきながら人への投資を進めていきたいと思っている。

〈総合政策部長〉ここ数年黒字を保っていることに非常に感謝している。「入るを量りて出ずるを制す」が基本だと思っている。その中で、「将来ビジョン・岸和田」の3つの重点目標であったり、万博であったりというところを記載いただいている。うまくメリハリをつけ、職員の意欲を上げ、新しい事業にも取り組みながら進めてもらいたい。

〈総合政策部長〉本案件について、原案のとおり、政策決定会議に諮ることとしてよいか。

【異議なし】

⇒本件、原案のとおり承認し、政策決定会議に付議する。

令和5年9月 26 日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 財務部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	令和6年度予算編成方針について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	令和6年度予算編成にあたり、その骨子となる予算編成方針について、付議する。 ■効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第3条第2号に該当
説明者	新内財政課長
	浅野参事
	高木予算担当長
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

別紙

付議会議	令和5年度 第4回会議
付議事項	令和6年度予算編成方針について

★取組の目的

対象	職員
どのような状態を目指す	令和6年度予算編成にあたり、その骨子となる予算編成方針について、付議する。 ■効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第3条第2号に該当

★総合計画上の位置付け

6020402	基本目標	みんなでつくる持続可能なまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	持続可能で信頼される行政になっている
	個別目標の方向性	④ 安定的な歳入確保と適切な歳出管理を進める
	行政の役割	中長期の視点で、効果的・効率的な財源配分や単年度収支及び基金・借入金の管理を行う

★現状と課題

「岸和田市健全な財政運営に関する条例」に基づき、持続的かつ計画的な財政運営に資するため、毎年、財政計画を策定し、次年度の予算編成を行っている。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項		決算(見込額)		予算額	見込額				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
財源内訳	国費								
	府費								
	起債								
	一般財源								
	その他								
事業費		計			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
				0	0	0	0	0	0

★当該事項に関連する人員増の必要性※

人員増の必要性		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
有	無					

★取組の効果を表す指標

指標名						目標値				
						R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
①										
②										

※事業費及び人員を確約するものではない。